

ネズミ類移動解析の実施状況（環境省）

1. 目的

- ・オガサワラカワラヒワ保全のためのネズミ類の駆除を進めるにあたり、ネズミ類を島毎に根絶した場合の再侵入のリスクを明らかにするため、母島及び母島属島におけるネズミ類の島間移動による遺伝的交流の実態を調べる。
- ・母島属島において、よりオガサワラカワラヒワにとって捕食リスクの高いクマネズミの侵入状況を明らかにする。

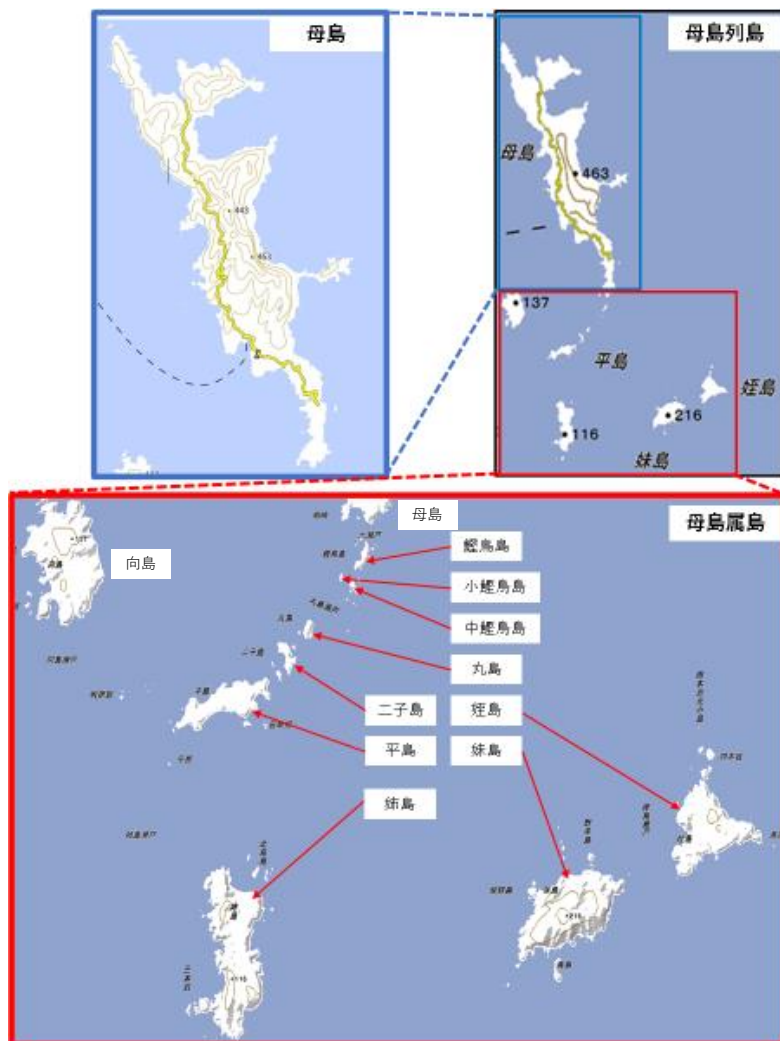


図1：サンプリング範囲（目標）

2. 令和3年度の事業進捗

- ・令和4年1月に二子島、丸島、鯉鳥島、中鯉鳥島、小鯉鳥島の5島において、かご罫を用いてネズミ類のサンプリングを実施（図2）。
- ・結果として、二子島で6個体、丸島では4個体を捕獲。捕獲個体は全てドブネズミの形態であった。鯉鳥島、小鯉鳥島、中鯉鳥島では捕獲に至らなかった。
- ・上記5島において、同時にセンサーカメラによる確認を行ったところ、鯉鳥島と丸島の2島でネズミ類が確認された（種名は不明）。



図2：サンプリング実施地域

- ・また、小笠原村の事業である「母島における集落ネズミ類一斉防除」において、母島の集落部で捕獲されたネズミ類41個体を譲り受け、分析に供出。
- ・得られた計51個体のサンプルについては、帯広畜産大学において種判別まで完了。移動については解析中（令和4年8月現在）。
- ・DNA解析結果について、二子島と丸島で捕獲した個体は全てドブネズミであった（形態による判別と一致）。母島集落部でサンプリングされた個体は、ドブネズミとクマネズミが混在していた。

3. 令和4年度の事業予定

- ・令和3年度に写真記録が得られつつも捕獲に至らなかった鯉鳥島に加え、姉島と平島においてかご罫によるサンプリングを実施。令和4年9月～11月の期間に実施し、捕獲できた個体は遺伝解析に追加供出予定。